

4. 研究会「講師」からの思い出と祝辞

祝 100 回
私と自立研究会との出会い

森 雅明

(第 24 回例会講師 港南区役所職員)

自立研究会が 100 回を迎えられることをお喜び申し上げます。

私と自立研究会との最初の出会いは、例会で、横浜市福祉のまちづくり条例を取り上げていただいた、平成 9 年 9 月(第 24 回)まで遡ります。

今でこそ「バリアフリー」と言えば多くの方がそれなりの理解を示しますが、当時はさほどでもありません。主管課長をしていた私は、半年前に制定された条例や福祉のまちづくり推進の PR をさせていただき

ました。

その後も主宰の森山さんから会報を贈っていただき、会報を読むたびに障害分野での視野が広がり、心を動かされてきました。

苦労や悩みを乗り越え常に前進し続ける森山さんのバイタリティー、森山さんを支える奥様の努力にエールを贈ると共に、自立研究会がその目的に添って会員の QOL を高め、ますます発展されることを心から祈っております。

祝 100 回
私と片マヒ自立研究会の出会い

横山 宏美

(第 41 回例会講師 横浜市磯子区役所職員)

私と中途障害者の皆様との出会いは平成 3 年、横浜市の港北区で、市内第 1 号の中途障害者活動センター「港北根っこの会」を立ち上げる仕事を通じて始まりました。

保健婦になりたてホヤホヤ、経験も技術も乏しく、あるのは情熱だけの私を受け入れ育ててくださったのは、何より皆様との出会いであったように感じます。

平成 11 年、高齢者・障害者に関する保健婦の勉強に渡米しましたが、その見聞を話して欲しいと、当時、中区中途障害者活動センター「チャレンジ新生」の立ち上げ活動をともにしていた E さんに頼まれたのが

契機となり、片マヒ自立研究会にお邪魔しました。

そのときちょうど、育児休暇中でしたので、E さんの奥様に子供をお願いし、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

現在は、磯子区役所の健康づくり係で生活習慣病の予防等に携わっています。いつか、片マヒ自立研究会の皆様と、次に倒れるかも知れない人を食い止められるような予防の活動ができればいいなあと考えています。

これからもよろしくお願い申し上げます。